

JAAC だより

— 学生にとっての2010年は・・・ —

～ 就活に始まり、就活に終わる ～

日本の大学に通う学生にとっても、海外の大学に通う留学生にとっても、今年、2010年は就職活動の話題に始まり、就職活動の話題に終わる年だったように思います。今年1年間に本誌に掲載した記事内容を振り返り見ても、私は多くの就職に纏わる原稿を寄せてきました。当事者である就職活動中の学生の皆さんにとっては、あたかも就職氷河期と呼ばれる荒海に放り出された心境ではないかと、不安と心配がつのるお気持ちを心からお察いたします。

とは言っても、私の立場としては就職活動中の皆さんに同調し、同情の念ばかりを抱くわけにはまいりません。時として、皆さんを叱咤激励し、時にはあえて苦言を呈する立場であることをも自覚しております。そんな私の立場から、少しお話をさせてください。仕事から、多くの日本の大学生とお会いして、留学のことや将来のこと、就職のことなどについてお話をすることがあります。その中で感じることは、学生の多くが就職をする準備ができていないのに就職活動を余儀なくされているという実態があるということです。以前から本誌の中でもお話してきましたが、就職活動とは求人側である企業と求職側である学生とのお見合いの場のようなものです。お互いが相手を受け入れ、自分たちの将来を共有するに相応しい相手かどうかを見定める場なのです。だからこそ、求職側である学生は自分の持ちえるベストな姿で臨み、いかに自分が求人側企業に対して有益な人材であるかを示さなくてはなりません。しかし、現状は求人側企業にとって有益だと思われる人材に成長する前に、就職活動の時期が来たので人並みに就活を行わなければならないという現実があることです。就職活動は求人側と求職側とのお見合いの場とは言え、言い方を変えればそれは求人側対求職側との戦いの場でもあります。求職側が何とか就職できるように真剣に臨んでいるのに対して、求人側である企業もできるだけ良い人材を獲得しようと必死なのです。多くの学生たちは、時としてその合戦の場に、戦（いくさ）の準備が十分に整っていないのにただ我武者羅に立ち向かっているようにさえ見えるのです。学生たちの中には、60社、70社、100社近くの面接を受けても、未だに内定をもらえていない人たちがいます。また中には、『大手企業ばかりを狙っていたので、今度は中小の企業にも当たってみます』という学生もいます。それはあたかも、自分たちよりも強い相手との合戦では敵わないから、今度は少し弱い相手と戦います、と言っているようにも聞こえるのです。

学生たちと話す中で、もう一つ感じたことがあります。それは、内定がもらえないことについて世の中や企業側への不平や不満をあまり口にしないことです。多くの学生たちは、『景気が悪い世の中だから、企業も大勢の新卒者を採用しないし・・・』と内定がもらえないことへの弁解じみたことを言いながらも、『内定がもらえないのは自分に何か足りないものがあるからだと思う・・・』と謙虚に、且つ、冷静に自分自身の姿を見つめているように見受けられます。それは、私にとっても一つの救いでもありました。創業以来、何十年、あるいは一世紀以上に渡って事業を営んできた企業の多くは、その年数だけ新卒者採用における学生の就職活動に立ち会ってきた豊富な経験と実績があります。言うなれば、企業は求人側対求職側の合戦においては百戦錬磨の強者たちなのです。その合戦に、二十歳そこそこの若者が生まれて初めて挑むのですから、そんなに簡単に相手を打ち負かせる道理がないのです。私と立場こそ違いますが、学生の就職について研究と指導をしている私の旧友曰く、『22歳で就職するなら実際の就職活動は半年間、その準備に当てる期間は21年と6ヶ月だよ』という言葉が、就活とは何たるかの全てを物語っているように思えます。つまり、就職をするにあたって一番大事なことは、その人の人間力。人間力とは生まれてからの自らの人生の中で育まれてきたもので、一夜にして得られるものではありません。だからこそ、非常に抽象的で、且つ、曖昧な表現でさえある人間力とは何なのかを自らが探し出し、それを自分自身が持つ特有の資質や才能、人間的な魅力として身につけることが重要なのです。就職活動を始めるまでの20余年間、家族や友人といった自分の身の周りにいる人たちから育てられ、支えられて生きてきた人生そのものが皆さんの人間力の源です。それらの多くは周りの人たちから与えられたものです。そして多くの場合、就職活動を始める前の2～3年の間が自分自身の人間力を高めるために、自ら能動的に行動する時期なのではないでしょうか。JAAC生の皆さんは、まさにこの時期をアメリカ留学という期間に当てています。したがって、この留学期間は皆さんにとって、就職活動を始める前までに築くべき自分自身の人間力の集大成の時期なのです。留学生だからこそ直面する言葉と文化の壁を乗り越え、その他、個々に異なる難題を克服するたびに一回り大きく成長するであろう皆さんは、重大な局面を乗り越える力を持ち合わせているはず。日本の大学生とは違う環境で過ごす皆さんが築き上げる人間力はとても魅力的なものになるはず。どうか、その人間力を存分に発揮してください。

(カリフォルニア事務局： 照井)

コラム：強い日本の再生には留学生の力が不可欠

最近、日本全体が覇気に欠け、元気がないと思いませんか？ 長期間に渡る経済低迷や不安定な国内政治もその原因の一つと言えるでしょう。しかし、私が一番感じていることは、全体的に若者たちの間で物事に対する気迫というもの薄れているように見えて仕方がないことです。つい先ごろ、高校生を対象とした意識調査が行われました。その中で、高校生が最も関心があることの第一位は『就職』でした。次いで、二位が『大学受験』。就職内定率が最低と言われる今の世の中を反映している結果であり、見方によっては高校生のうちから将来の就職のことを考えていることに感心することもできるでしょう。さらに、同じ調査の中で、高校生が最も希望する職業は『公務員』という結果も、そのことを裏付けるものです。しかしながら、見方を変えれば、あまりにも現実にとらわれ過ぎていて、無難な道に進むことしか考えていないようにも思えるのです。希望する職業に『公務員』を挙げたのは言うまでもなく安定を求めてのことだろうと推察しますが、世の中の現状は公務員の数を減らす方向に動いていて、また、その必要性を説いていることを忘れてはなりません。このように、『無難』と『安定』ばかりに目を向けた考え方が若者たちの間で蔓延しているのではないのでしょうか。かつては、『自分は・・・になるッ！』とか、『世の中はこう変わるべきだッ！』、『これからの世界はこう変わる！』などと声を大にして主張し、時には今の体制を批判し、傲慢ささえ感じるような気概に溢れる強気な気持ちというもの確かに存在したと思います。そういう気迫と希望を持った多くの若者たちが海を渡り、海外で学んだ多くのことを日本の社会と経済の発展のために活かしてきました。しかし今、ただでさえ少子化によって若者人口が減る中で、かつてのような気概を持った若者が著しく減少していく様に私は憂慮の念を隠しえません。あるアメリカの元政府高官が、『かつてはアメリカに多くの日本人留学生が来て、多くのことを日本に持ち帰り、日本は世界経済の発展の一翼を担ってきた。しかし今は日本からの留学生は減り、代わりに韓国や中国からの留学生が増えている。このことが何を意味するかは容易に理解できる・・・』と語っています。海外に目を向けるということは、単にアメリカの大学に行けば良いという短絡的なものではありません。今や楽天やユニクロといった企業では社内会議を英語で行うことを実践し、企業の管理職者として英語が話せることは必須条件となりました。この試みは他の企業にも広まっています。また、英語の必要性だけでなく、海外の取引会社との仕事は相手企業の国の言語を使うという風潮が主流になりつつあるのです。では、何故、日本の多くの企業がこのような取り組みを始めたのでしょうか？ それは、その必要性があるからに他なりません。そうであるならば、『就職』に一番感心を持つ若者が今考えるべきことは、成功する就職をするにはどのような準備をすべきかということではないのでしょうか。その準備の一つが、海外に目を向け、必要に応じて海外で学ぶことではないのでしょうか。日本は歴史上類を見ない奇跡的な経済復興と発展を遂げた国ではありますが、もはやその経済大国としての地位と名声は隣国に奪われてしまっています。このままでは、日本はさらなる負のスパイラルに陥りかねません。日本と言うまでもなく島国です。諸外国との交易なくしては自国の生存はできません。だからこそ、多くの日本の若者たちに海外に目を向けてほしいのです。だからこそ、海外で学んだことを持ち帰り、日本のため、世界のためにそれらを役立てていただきたいのです。たとえ短期の留学であっても、それなりに学び、感じることはできます。その留学経験を活かす世の中に既になっているのです。強い日本を再生するには、こうした海外を経験した人たちの存在が不可欠なのです。 (カリフォルニア事務局：照井)

Let me remind you.....

★JAAC 生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

●JAAC 本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp

冬季休業期間と緊急連絡先のご案内

JAAC 日米学術センター並びに同カリフォルニア事務局とミズーリ事務局は、以下の日程を冬季休業期間とし事務局の営業をお休みいたします。つきましては、休業期間中の緊急連絡先をご案内させていただきますので、ご確認ください。

【JAAC 日米学術センター本部】 12月 29日 (水) ~1月 5日 (水) 緊急連絡先：090-2775-3168 (鈴木携帯)

【JAAC ミズーリ事務局】 12月 23日 (木) ~1月 3日 (月) 緊急連絡先：573-450-3930 (ライモン携帯)

【JAAC カリフォルニア事務局】 12月 23日 (木) ~1月 3日 (月) 緊急連絡先：949-910-6806 (業務用携帯：新井)

※同事務局の照井の連絡先：日本の自宅電話/Fax：047-328-1070・日本の携帯：090-6713-8182

Season's greetings from all of us at JAAC.

May the New Year bring joy and peace to you and to those you love.

Our sincerest wishes for happy holidays.

ご家族の皆様におかれましては喜びと平穏な日々と

素晴らしい新年をお迎えになられますことを心よりお祈り申し上げます

JAAC 日米学術センター